

ミハイル プレトニョフ

ピアノ・リサイタル

世界の頂点を極めた
孤高の巨匠

スクリャービン：24の前奏曲 Op.11
ショパン：24の前奏曲 Op.28

Scriabin: 24 Preludes Op.11
Chopin: 24 Preludes Op.28

2023年2月28日(火) 19:00開演 (18:20開場 / 21:00終演予定)

東京オペラシティコンサートホール

京王新線「初台駅」東口(直結) 徒歩5分

7:00p.m., Tuesday, February 28, 2023 at Tokyo Opera City Concert Hall

全席指定 S¥13,000 A¥11,000 B¥8,000 C¥6,000

10月22日(土)10:00前売開始 ジャパン・アーツぴあオンラインチケット:10月15日(土)

※料金には消費税が含まれております。※特別料金につきましては裏面をご覧ください。
※先行販売で満席となった席種は、以降販売されない場合がございます。

お申込み

ジャパン・アーツぴあ 0570-00-1212 www.japanarts.co.jp

東京オペラシティチケットセンター 03-5353-9999 チケットぴあ t.pia.jp [Pコード: 228-371]

イープラス eplus.jp ローソンチケット t-tike.com [Lコード: 34114]

MIKHAIL
PLETNEV PIANO RECITAL

主催：ジャパン・アーツ
協力：KAWAI

予断を許さない音楽家プレトニョフ ～今の境地やいかに

寺西基之（音楽評論家）

ピアニストとして、指揮者として、今や巨匠の域にあるプレトニョフだが、かつては異端児的な存在だった。若い頃の彼は、持ち前の研ぎ澄まされた技巧を武器に、伝統的な作品像に拘ることなく、いかにも矢がった大胆な表現で作品に新しい角度から光を当てる鬼才として注目を浴びたものだ。特にソ連のアカデミックな音楽教育からこうした異才が出現したことは驚きをもって受けとめられた。彼のそうした才気と表現意欲はピアノだけでは収まらず、やがて指揮にも乗り出し、自身で楽団も創設してピアノと指揮の両面で八面六臂の活躍を展開、その後突然ピアニスト引退を宣言したかと思うと、また復帰するという具合に、生き様もまさに型破りだった。

その彼が大きな変貌を見せたのが2016年の来日リサイタルである。既存のイメージに拘らずに作品に自由にアプローチする姿勢そのものは不変だが、それがかつてのようにいかにも才気煥発といった外へと向かう形ではなく、じっくり内面を見つめるような方向に向かうことによって、演奏が内省的、瞑想的なものとなり、そこに巨匠風の超然たる雰囲気は漂うようになっていたのだ。常識にとらわれない視点で様々なアプローチを試み続けてきた末に到達した新たな境地がそこにはあり、それは2019年のリサイタルでも同様だった。元々人柄としてはとても物静かで、寡黙な思索家といった感じの人なので、そうした境地に至ったのもある意味では自然なのかもしれない。

といってもその演奏がきわめて個性的で新しい発見をもたらすものであることには違いがない。スクリャービンとショパンの前奏曲集を対とした今回のプログラムで、彼はどのような表現を聴かせてくれるのだろうか。前者にはすでに若い時のCD録音があるが、それとは趣の異なる内省的な世界の広がる演奏になりそうだ。しかし予断を許さないプレトニョフのこと、もしかしたらさらにまた変貌した新境地を示すかもしれない。いずれにせよ“今の”彼の芸風をじっくり味わいたいものだ。



© Mat Hennek / DG

ミハイル・プレトニョフ（ピアノ） Mikhail Pletnev, Piano

プレトニョフは、ピアニスト、指揮者、作曲家、とそれぞれの分野において並外れた才能を発揮し、世界中の観客を魅了している芸術家である。

1957年、音楽家の両親のもと、ロシアのアルハンゲリスクに生まれ、幼少の頃から音楽に非凡な才能を示す。カザンで育ち、13歳で中央音楽院、1974年モスクワ音楽院に入学。ヤコフ・フリエール、レフ・ヴラセンコに師事した。

1978年、21歳でチャイコフスキー国際コンクール・ピアノ部門においてゴールド・メダル及び第1位を獲得。これにより早くも世界的に認められる存在となった。驚くべき技巧、深い知性に裏づけられた演奏、完璧にコントロールされた美しい音色で、カリスマ的人気を誇る現代最高のピアニストの一人として活躍。1988年、ワシントンで開かれた先進国首脳会議で演奏したことが、ミハイル・ゴルバチョフとの関係を築き、その後彼が自由な音楽活動を行う契機ともなった。

1990年、ロシア内外の個人、会社、財団等の支援によって資金を得、オーケストラ、ロシア・ナショナル管弦楽団（RNO）を創設。彼の舞台芸術ヴィジョンに賛同して、国内の多くの優れた音楽家たちがこのRNOの始動に参加。そして彼のリーダーシップのもと、RNOは数年のうちに世界有数のオーケストラとして認められるようになった。客演指揮者としてもロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団、フィルハーモニア管弦楽団をはじめとする数々のオーケストラを指揮。2011年2月13&14日にはドレスデン空爆記念日演奏会にてドレスデン国立歌劇場管弦楽団を指揮し、ブラームスの「ドイツ・レクイエム」を演奏した。またボリショイ・オペラにおける「スペードの女王」の指揮で大成功を収めているほか、コンサート形式のオペラ指揮も行っている。2015年より東京フィルハーモニー交響楽団の特別客演指揮者に就任。

作曲家としては、“Classical Symphony”、ジャズ組曲、ヴィオラ協奏曲、ほか数多くの作品を発表し、近年ではスティーヴン・イッサーリスのために書いたチェロ・ソナタが大成功を収めている。

2022年、プレトニョフは新たなオーケストラ、ラフマニノフ国際管弦楽団（RIO）を創設。東西ヨーロッパの優れた音楽家がスロヴァキアのブラティスラヴァに集まり、最初のレコーディングを行った。今後多くのレコーディング・プロジェクトおよびコンサート・ツアーが予定されている。

《特別割引チケットのお知らせ》

ジャパン・アーツびあオンラインチケット及びジャパン・アーツびあコールセンターで受付

◎学生席（各席種の半額）

残席がある場合に限り、2023年1月21日（土）10:00から受付を開始いたします。

※社会人学生を除く公演当日25歳までの学生が対象です。公演当日、入口または窓口にて学生証を拝見いたします。（学生証がない場合は一般料金との差額を頂戴いたします。）

◎シニア・チケット 65歳以上の方はS席 ¥12,000・A席 ¥10,000にてお求めいただけます。

◎車椅子の方は、本人と付き添いの方1名までが割引になります。（ジャパン・アーツびあコールセンターのみで受付）

＜次のことをあらかじめ承知の上、チケットをお求め下さいませ＞

① やむを得ない事情により、曲目等が変更になる場合がございます。②公演中止を除き、お買い求めいただきましたチケットのキャンセル・変更等はできません。③いかなる場合もチケットの再発行はできません。紛失等には十分ご注意ください。④演奏中は入場できません。⑤未就学児の同伴はご遠慮ください。また、就学児以上のお子様もご入場には1人1枚チケットが必要です。⑥全席指定です。指定のお席でご鑑賞ください。⑦場内での写真撮影・録音・録画・携帯電話等の使用は固くお断りいたします。⑧ネットオークションなどによるチケットの転売は、トラブルの原因となりますのでお断りいたします。⑨他のお客様の迷惑となる場合、主催者の判断でご退場いただく場合がございます。⑩公演実施の可否は新型コロナウイルス感染状況を見極めて慎重に判断させていただきます。

Twitterでフォローする
@japan_arts